シラバス（理科 生物基礎探究）

科目名	生物基礎探究	学年	3	使用教材	教科書	生物基礎	数研出版
		必履修の別（必・選必・コース選）	選必		副教材	つかむ生物基礎 ニューステージ生物図表	浜島書店 浜島書店
学科	国際文科 理数科 普通科	単位数	2 2 2				
系統科目	生物基礎（1年選必・2単位）、生物（3年選必・4単位）など						

【学習目標】

1 生物や生命現象の持つ多様性を踏まえつつ，それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。

2 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して，生物や生命現象に対しての興味・関心を高める。

3 観察，実験を通して生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。

4 生物や生命現象の中から問題や課題を見出し，観察，実験などを通して探究する姿勢を身につける。

【学習方法のポイント】

○ 日々の授業の復習を、その日のうちに行う。
○ 語句の暗記に終始せず、学んだ生物現象について自らの言葉で説明できるようにする。
○ 教科書や問題集を活用し、問題演習を通して理解を定着させる。

【学習評価と観点】

○ 次の4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに下記の評価マトリクスにより評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

①自然事象への関心・意欲・態度	生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、遺伝とDNAのしくみを学習し、生物体内の恒常性の維持のしくみや生物の多様性と生態系の維持について関心をもち、意欲的に探究の方法を追究する活動を行うとともに、自然環境を保全し生命を尊重しようとする態度を養う。
②思考・判断（科学的な思考）	中学校理科との関連を考慮しながら、仮説の設定、実験の計画、情報の収集、調査を通して、探究の過程を重視しながら、科学的な思考力、判断力を育成する。 基本的な学習内容を整理・整頓をし、仮説をしっかり立て、科学的な見方や考え方により、課題を整理し、取り組もうとする。
③観察・実験の技法・表現	各項目の学習活動と関連させながら、観察、実験の基本操作を習得するとともに、規則性を見いだしたり、自らの考えを導き出したりして創意ある報告書の作成や発表を行わせる。また、対照実験、データの解釈など探究の方法を習得させる。 具体的には観察・実験したことをレポートにスケッチをしたり、自分の考えでまとめたり、調べたことを整理して、発表できるかを評価する。
④自然事象についての知識・理解	観察や実験を通して、生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する原理・法則や基本的な概念を理解し、知識を身に付ける。知識は基本的には定期考査で確認され、観察・実験のレポート、小テスト、学習での取り組み等を各単元での目標に準拠した観点別評価に基づき全体の評価・評定を実施する。

評価方法／観点	①	②	③	④	備　考
学習状況観察	◎	―	―	―	
ノート	◎	○	◎	○	
テスト	―	◎	○	◎	定期考査・小テスト

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

○ 学習の記録簿を活用しすることで、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう。

【定期テスト範囲（目安）】※追加・変更することもある。

			教科書（単元）	備　考
学期	1学期	中間	生物の構造の機能～細胞とエネルギー,細胞内共生説	
		期末	遺伝情報とDNA～体液の恒常性	
	2学期	中間	自律神経系とホルモン～免疫	
		期末	植物の多様性と生態系	
	3学期	学年末	－	

【学習サポート】

○ 大学入試問題など、授業の教材以外についても対応しますので、ぜひ質問に来て下さい。
○ 学習方法や問題集選びなどの相談にも対応します。